

お わ り に

群馬大学共同教育学部附属小学校 副校長 石関 和夫

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた3年間。本校においても、令和2年度については、公開研究会の開催を中止、令和3年度、4年度は、オンライン授業配信及びZoomによる授業研究会の実施とし、対面による公開を見送ってまいりました。オンライン配信では、様々な方に本校の取組をご覧いただけた半面、実際の授業の雰囲気や臨場感を感じていただくことができなかったという課題も残りました。今年度については、終息には至らないものの、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の変更も踏まえ、4年ぶりに対面での公開授業と授業研究会の実施に踏み切りました。

本校では、これまでの研究の成果と課題や、本校児童の実態の分析結果を基に、新たに研究主題を「共によりよい生活を創造する子どもの育成」、副主題を「非認知的能力『目標の情熱』と『粘り強さ』に着目した学びのデザインを通して」として研究に取り組んでまいりました。非認知的能力は、数値化して測定することが困難な能力ですが、認知的能力以上に子どもの将来に大きく影響する能力であると考えます。本校では、問題解決的な学習において、非認知的能力「目標への情熱」と「粘り強さ」が発揮された姿を想定し、その能力が発揮される学びのプロセスを生み出す真正な学びのデザインについて探ってまいりました。ぜひ、本研究会において、本校職員の創り上げた授業と子どもたちの姿をご覧いただき、参加された皆様方から忌憚のないご意見をいただければ幸いに存じます。

授業を「山」に例えるならば、私たちは、その頂上である「よりよい授業」を目指して歩みを進めています。一方、その目標に到達するための登り方は決して一つではありません。つまり、「よりよい授業」にするための手段は無限にあると考えます。また、その手段は、時代とともに変化するものであるとも考えます。このように考えると、授業改善は、教員にとって永遠の課題であると言えると思います。本校職員は、これからも、子どもたちの豊かな成長を願い、「共によりよい生活を創造する子ども」を育成できるよう、「よりよい授業」にするための手段を模索し、全力で授業改善に取り組んでまいり所存です。

結びに、本校の研究を進めるにあたり、熱心なご指導と丁寧なご助言をいただいた、群馬県教育委員会をはじめとする関係機関の皆様方、研究協力者である群馬大学共同教育学部の先生方に、この場を借りて深くお礼を申し上げます。今後とも、本校の取組が、県内外の多くの皆様の参考にしていただけるものとなるよう、引き続きご指導をお願い申し上げます。